



# 東方友誼

鹿児島市日中友好協会

## 小異を存して、大同を求む



鹿児島市日中友好協会会長 海江田 順三郎

以前から望まれていた会報の発行が、遅まきながら実現したことを大変嬉しく存じます。

さて、日本と中国は一衣帯水の近い距離にあると言われてきましたが、最近、特に日本の経済にとって、中国は非常に密接な関係になってきたようです。

北京オリンピックの準備もあり、中国は現在、高度成長の真っ只中で、その旺盛な投資のお陰で日本の素材産業も輸出が伸びています。

一時は中国脅威論もささやかれましたが、日中の経済は、すでに唇齒輔車の不可分の関係になりつつあります。

経済関係に比し、政治や過去の歴史認識の面では、日中間には幾分の差異や、わだかまりがあるのを感じます。互いの視点や、立場の違いが、物の見方、考え方にズレを生じさせるものと思えます。

日中関係を円滑に、前向きに展開するために忘れてならないのは一九七二年の日中回復の際、周恩来総理の談話にあった「小異を存して、大同を求む」の中国の格言ではないかと思えます。

日本の諺にも「小異を捨てて、大同に就く」とありますが、小異を無理に捨てなくても、共通の大きな目的に向かって「同心協力し、段階的に小異の解決を図ることの肝要さを主張されたもの」と感銘します。

「流水は先を争わず」相互の信頼と、互助互譲の精神を基調に、日中両国の子孫孫に至る平和と、友好の持続を念願してごみません。

※一衣帯水……日本の海のように、隣の狭い川や海溝、また、そのような川や海溝によって隔てられて、いささか、距離の近さや関係の深い、このたとえ。

※唇齒輔車……唇の「輔車」を指し、歯の「輔車」を指し、唇と歯は互いに助け合っているように、一方がなければ、他方も成り立たない関係の意味。

## 『鹿児島で世界を語ろう』 第十回 外国人による日本語スピーチコンテスト

### 2004年12月18日(土)

開場 12時30分 開演 13時00分～  
場所 鹿児島県市町村自治会館 4Fホール  
(鹿児島市鴨池新町7-4 TEL099-206-1010)

- テーマ:自由
- スピーチ時間:5分以上 7分以内
- 表彰:最優秀賞……1名  
鹿児島市日中友好協会賞・1名  
優秀賞……2名  
審査員特別賞……2名  
南日本新聞社賞……1名  
参加賞……全員



審査員:久永純也氏(南日本新聞社論説委員)  
新名主健一氏(鹿児島大学教授)  
古木圭介氏(グローバルユースピューロー)  
池田優佳里氏(赤塚学園日本語教育科主任)  
相慶壽子(鹿児島国際大学助教授)

主催:鹿児島市日中友好協会  
主管:学校法人赤塚学園・日本語教育科

後援 鹿児島県教育委員会 鹿児島市教育委員会 鹿児島県国際交流協会  
南日本新聞社 鹿児島商工会議所 鹿児島青年会議所  
(株)専門学校新聞社 (社)鹿児島法人会

### 主旨

私たちは、国際交流、国際相互理解、国際感覚、国際化、グローバルゼーションなどの言葉を気楽に良く使いますが、あまり深く考えてみたことは、ないのではないのでしょうか。

これらの言葉は全て、生まれ育った環境、言葉や習慣などの文化の違いを尊重しながら共存していくことを意味しています。しかしいつの世も、国や地域における争いが絶えません。国・民族・宗教・文化の違いで争いが起こるのは、悲しいことです。

これからますます世界は狭くなります。世界が狭くなればなるほど私達は、地球という星に住む同じ運命共同体の仲間なのだという認識が必要になってきます。

遠く外国に住む人も、隣に住む人も同じ仲間です。たまたま特定の国籍を持っているだけです。私達はそれぞれの違いを認めながら共存して行かなければなりません。

そのためにはお互いを知ることです。日本の生活を通して遠来の仲間達がどのようなお話をしてくれるのか。お互いの幸福のために「違いをすること」から始めましょう。

鹿児島市日中友好協会では以上のような主旨のもとに第10回外国人によるスピーチコンテストを開催します。



# 長沙・鹿児島市友好交流祝賀会



鹿児島市の友好都市である中国・長沙市で7月22日、両市の友好交流祝賀会が開かれました。鹿児島市長の赤崎義則氏に長沙市から名誉市民の称号が贈られました。

華天大酒店で行われた友好交流祝賀会には、赤崎市長を団長とする友好代表団14人をはじめ、鹿児島から訪中した市民590人を含む約300人が出席しました。

長沙市の譚仲池市長から名誉市民の証書を手渡された赤崎市長は「この榮譽を終生忘れず、最大の誇りとして、両市の友好親善を深める努力を続けたい」と感謝の言葉を述べられました。

また、国際交流機関の長沙市対外友好協会は、民間交流促進に努力したとして、赤崎市長と鹿児島市日中友好協会の海江田順三郎会長を海外顧問に委嘱しました。

長沙一鹿児島、両市は1982年に友好都市を締結して以来、これまで長沙市の医師や市職員など約71名が鹿児島市で研修、帰国後職場で成果を生かしています。

尚、鹿児島市日中友好協会海江田順三郎一行は、その日の午前中に岳麓山の黄興の墓に参り、墓前で太極拳を披露しました。

## 「鹿児島市・長沙市友好交流祝賀会に参加して」

鹿児島市日中友好協会

事務局長 木村 壽弘

今回、鹿児島市と長沙市の長年にわたる友好交流を祝う記念行事が長沙市で開催されました。

「鹿児島市友好代表団」一行約九十名の中の団体として海江田会長を団長に、「日本健康太極拳協会」から師範4名の方、田畑昭志さん、久保敦子さん、間世田弘子さん、松谷保子さん、そして若干二十歳の徳田要人君、事務局長の私、以上七名で参加しました。長沙に到着後、夕方から通称国際大酒店で「長沙市人民対外友好協会」の会長で「共産党長沙市委員会」の呉志雄副書記より歓迎のスピーチを受け、海江田会長より約二十年になる鹿児島市日中友好協会の活動と交流御礼のスピーチがありました。



岳麓山・「愛晚亭」にて

席を移しての晩餐会は和気あいあいと楽しい雰囲気の中で経過し、両市の芸能文化交流のある劇場へと向かいました。女性部会長の天達美代子さんが「文化交流協議会」の団長として郷土芸能披露をする両市の公演は今回で5回目となります。

フィナーレは赤崎市長をはじめ代表団の方々が出発までおはら節を踊り終えられました。

翌日は目的の一つでもありました。岳麓山に眠る「辛亥革命の志士・黄興」の墓所を参詣しました。黄興は一九〇九年一月に来歴し、西郷隆盛の墓参りをし、その時、詩を詠んでいます。

鹿児島市日中友好協会では長沙市との友好協約二十周年記念イベントとして東京学芸大学名誉教授「中村義」先生に「黄興と西郷隆盛」の講演をお願いしました。予想を超える聴講者にうれしい悲鳴をあげた事を思い出します。

鹿児島市日中友好協会は昭和六十年(1985)に設立して以来、永年にわたり民間交流、友好促進に努力したとして、その功績を称え海江田会長が海外顧問に委嘱されました。関係者の暖かい歓迎を受けて祝賀会もどこおりなく終了しました。

長沙関係者の皆様方、暖かい歓迎を有難うございました。鹿児島市日中友好協会はこれからも相互間の理解と友好を益々発展させてまいります。今後の会員の皆様方のご協力ご支援をお願い致しまして長沙訪問のご報告と致します。

## 「研修生は山東省青島からが中心で・・・」

鹿児島中国経済交流協同組合

理事長 大茂 健二郎

三年前に県の許可を頂きまして、山川、枕崎の鋳造工場阿久根、志布志の鉛管工場をはじめ、鹿児島市の康正産業へも研修生を派遣しております。

研修生は中国から三年間の期限で来日致しますが、最初の一年目の日本語教育には苦勞しております。

今年パソコン、デジカメ、日本語教育用書籍をロータリークラブの補助金で購入させて頂き助かりました。

研修生は来日するまでに三ヶ月間勉強はしてきますがそれだけでは当然たりませんから、日本人と働きながらまた、教育担当の「曾」さんが日曜、月曜等に派遣先に赴き日本語を教えております。これからスムーズに出来ると思っております。



地場産業の職域環境は厳しく二〇、三〇代の若い働き手  
がこも来てくれません。大半が六〇才以上の女性を中心  
です。

そこで、中国より研修生を受け入れる機関としてこの組  
合を設立し、三〇名の組合員に配員しており高い評価を得  
ております。現在、研修生は一七〇名程おり、来年の今頃  
には二二〇名位になる予定です。

研修生は山東省青島が中心で全員が女性です。女性は随  
いを自分でするからで月四五千円しか使いません。

一年目は研修生として残業が出来ませんが、二年目、三  
年目になると残業が出来るようになり、三年間で三〇〇万  
円位貯めて帰ります。

宿舎、ガス水道、電気支給を含めて十二万円位費用がか  
かりますが、一年目は研修費用として六万円、二、三年目  
は八万円を貰います。

自分で貯めたお金は送金しますが、給料から月三万円を  
預かり、三年間で貯まった一〇八万円と金利を帰国する際  
、パスポートと共に入管を通ってから本人へ渡します。

来日する時に保証金(五〇〜六〇万円)を積んだり借金を  
してきますが、三〇〇万円あれば中国では大変な金持ちで  
す。家は建てられる、結婚は出来る車も買えます。

今後共、日中友好促進のために努力して行きたいと存じま  
す。

## 「中国、湖南省長沙市 第五回文化交流の旅」

鹿児島市日中友好協会

女性部会長 天達 美代子

一九九九年六月から始まったこの交流も五年目を迎え振り  
返ってみますと様々な出来事と、その都度新しい出会いの  
中で過して参りました。

昨年は都合で行けなかった分  
今年、長沙市の皆様との出会いは  
ひとしお懐かしい思いが致しまし  
た。

また今年には特に鹿児島市長さん  
はじめ関係者の方々五〇名も一同  
に参るという事で私たち鹿児島  
文化交流協議会(日中友好協会女性部含む)四一名が参加致  
しました。

今回は交流内容にも変化をと演芸にも県下の名だたる諸先生  
方にお願ひ致しました。

前回訪問致し姉妹提携の準備を進めておりました長沙市第  
三幼稚園とも目出度く調印を締結して参りました(枕崎市ふ  
じ保育園 他)それぞれに大成功の内に帰って参りましたが  
その際には大変な努力と忍耐の土台の上で成り立っているこ  
とは言うまでもありません。

誰でも使用できない劇場  
の使用料舞台設営装飾料の  
交渉など私たち限られた旅  
費の中での相談事、何度会  
場を変更しようと思った事  
でしょう。

また、出発前は県民ホール  
・市民文化ホールを借りて  
の総合練習、公演当日は必  
死で練習した舞踊も数曲、  
時間の関係で演舞ができず  
涙した先生方、二日目の公  
演では会場に着いてからそ  
こは立て直しの工事中で隣  
の別館で公演、それでも立  
派にメンバーは笑顔で交流  
を果たして参りました。



天達美代子 赤崎市長

私達は続く限りこの文化交流は続けて参ります。  
それも次の世代にバトンタッチして末永く和と  
輪を広め鹿児島との交流に微力ながらのお手伝い  
をと思つて頑張りたいと思ひます。

毎年初夏の頃に実施致しますので皆様方のご支  
援とご参加をよろしくお願ひ申し上げます。



## 外国人による日本語スピーチコンテスト

## 鹿児島で

## 世界を語ろう



鹿児島市日中友好協会副会長  
学校法人赤塚学園 理事長

赤塚 晴彦

「鹿児島で世界を語ろう」は大園純也氏  
(前・南日本新聞社長、現・国立大学法  
人鹿児島大学常任理事)の発案である。

歴史的に日本文化の原点は温かい南風と  
黒潮に乗って、鹿児島経由でもたらされた  
。然し、長い鎖国時代を経て、四海兄弟と  
なすことなく、日本人の常識は世界の非常  
識、日本人の非常識は世界の常識、と言わ  
れて久しい。

「ご飯茶碗を手に持って頂くのは、食食食、  
食卓に置いたまま頂くのは、犬食い」

「玄關で客人の靴先の向きを要えるのは、  
直ぐ帰れと言う意味」「白いバラの花は葬  
儀の時」「手紙はトイレトペーパー」  
「日本人はもっとお洒落をしていい。茶髪  
どうしていけないの?」などなど。

私たちは日本語弁論大会を通して、留  
生から多くの教訓を学ばせて頂いている。  
予選、本選にエントリーされた様々な国籍  
の留学生は四〇〇人を下らないだろう。

そして、現実、多くの留学生がこの地を  
去る。歳数にして鹿が棲む鹿の国―鹿児  
島。だが、彼らは再びこの地に戻ることは  
ない。明治以降、本島は北への人材供給  
地であった。長い未曾有の大不況を抱え  
たまま二十世紀から二十一世紀を迎えた。  
トンネルの確かな出口は未だ見えない。

この間、国際情勢は大きく変化した。  
国際化社会に向け私たち自身の真摯な意  
識改革、発想の転換が強く求められる。

留学生を次世代の良きパートナーとし、  
お互い切磋琢磨して新たな感性を磨き、異  
文化が激しくぶつかり合い、何でもがぶ飲  
みしてしまう、大らかで懐深く、偏見のな  
い地域社会の創出が強く要請される。

留学生を受け入れるに最適なインフラは  
整備されているか。

## 入会のご案内



日中友好協会は、日本と中国の友好を願う人々が  
思想、信条、政党政派にかかわらず、日中友好  
の一点に集う大衆組織です。現在、平山郁夫氏(日  
本画家)を会長に全国の協会が活動を行って  
います。

鹿児島市日中友好協会は、この趣旨のもとに、  
民間レベルの国際親善団体として昭和60(19  
85)年9月に設立され、活動してきました。そ  
の3年前の昭和57(1982)年10月、鹿児島  
市と長崎市が友好都市協約を結びました。20  
02年12月20日に日中友好30周年・鹿児島  
市&長崎市友好都市20周年を記念して、東京学  
芸大学名誉教授・中村 義先生を迎えて「辛亥革  
命の志士・黄興と西郷南洲」と題して、記念講演  
を開催しました。鹿児島市日中友好協会はこれ  
からも、友好都市・長崎市との友好活動を中心  
にさまざまな活動を行ってまいります。

## ◆各種行事の主催・後援

友好都市・長崎市との芸術・文化面での交流や、中国人留学生との交流会  
又、中国より各分野の講師を招いての講習会、映画上映会など多彩なイベントの開催。  
文化・スポーツ・学術ならびに各分野の参観団や交流視察団の派遣および訪日団の招請。

## ◆中国語・日本語の会話講座(教室)

中国語の普及活動や日本語の教室(留学生への)等の開講。

## ◆各種イベントの開催

中国留学生との中国家庭料理教室、中国映画を楽しむ会、胡弓等の中国器楽を聴く、習う  
会・中国語スピーチコンテストの開催・太極拳、氣功教室を開催。

●中国に関心のある方やボランティア活動に興味のある方のご入会をお待ちして  
います。会費は2000円です。入会希望の方は本部事務局(発行所住所)  
まで、住所・氏名・電話番号をご記名のうえお気軽にお申し込みください。

申し込み方法：郵送・電話・FAX・メールのいずれかで。

口座：鹿児島銀行〇〇〇〇〇〇

## 日中友好協会学生部～役員紹介～

会長：田 野飛(瀋陽市)鹿児島大学大学院農学研究科  
宋 東(大連市)鹿児島国際大学大学院国際文化研究科  
金 晶(桂林市)鹿児島大学農学部  
白 銀平(北京市)鹿児島大学水産研究科修士課程



今年、関係者各位のアイデアを再結集し  
て、装い新たに第十回記念「鹿児島で世界  
を語ろう―日本語弁論大会」が企画、進行  
中である。

在留留学生にとつて、また鹿児島県・市  
民にとつて、二十一世紀のインターネット  
・ポータル時代から相応しく、そして鹿  
児島と世界を結ぶ、実り多い虹の架け橋に  
なつて欲しいと心から希っている。

開催日十二月十八日(土)、固唾を呑んで  
待つ毎日である。

発行所 鹿児島市日中友好協会  
会長 海江田順三郎

〒892-8555  
鹿児島市千日町1番12号(タカプラ内)

TEL099-226-2161  
FAX099-224-2470

E-mail kikaku@nihao-kagoshima.jp  
ホームページ  
http://www.nihao-kagoshima.jp